

5 次の文章を読んで、あとの(1)から(4)までの問いに答えなさい。

近年、日本から毎年約1,000万人以上の人々が海外に出かけており、海外から日本を訪れる人も増えている。世界的にも、国境を越えて人、もの、お金、情報などが自由に行き交うグローバル化が進んでいる。

そうしたなか、地球規模での環境問題の解決に向けた取組や、先進国と発展途上国との経済格差の是正が、国際社会の大きな課題となっている。

(1) グローバル化に関して、次のIの表は、中国、韓国、アメリカ、香港、タイ、台湾を訪れた日本人旅行者数の推移を示したものである。IIの表は、それらの国・地域から日本を訪れた外国人旅行者数の推移を示したものである。IやIIの表について述べた文として最も適当なものを、下のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

I 海外を訪れた日本人旅行者数の推移 (単位 千人)

国・地域名	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
中国	3 317	3 731	3 658	3 518	2 878	2 718
韓国	3 053	3 023	3 289	3 519	2 748	2 280
アメリカ	2 918	3 386	3 250	3 698	3 730	3 579
香港	1 204	1 317	1 284	1 255	1 057	1 079
タイ	1 004	980	1 103	1 341	1 516	1 265
台湾	1 001	1 053	1 243	1 393	1 381	1 635

II 日本を訪れた外国人旅行者数の推移 (単位 千人)

国・地域名	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
中国	1 006	1 413	1 043	1 425	1 314	2 409
韓国	1 587	2 440	1 658	2 043	2 456	2 755
アメリカ	700	727	566	717	799	892
香港	450	509	365	482	746	926
タイ	178	215	145	261	454	658
台湾	1 024	1 268	994	1 466	2 211	2 830

(I, IIともに「観光白書 平成28年版」をもとに作成)

ア アメリカを訪れた日本人旅行者数とアメリカから日本を訪れた外国人旅行者数は、いずれも2009年から2014年までの間、毎年増え続けている。

イ 韓国から日本を訪れた外国人旅行者数は、2009年から2014年までのいずれの年においても、それぞれの国・地域から日本を訪れた外国人旅行者数の中で最も多い。

ウ 2014年にそれぞれの国・地域を訪れた日本人旅行者数は、いずれも2009年にその国・地域を訪れた日本人旅行者数より少ない。

エ 2014年にそれぞれの国・地域から日本を訪れた外国人旅行者数は、いずれも2009年から2014年までの6年間で最も多い。

(2) 環境問題の解決に向けた取組について述べた文として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 大規模な開発のあと、環境への影響を評価する制度のことを環境アセスメントという。

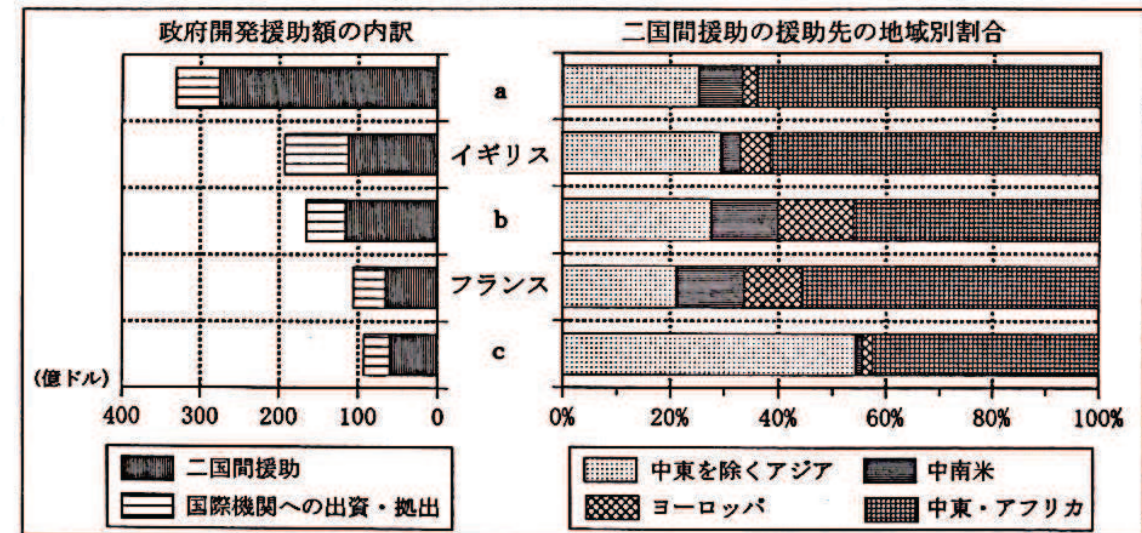
イ 高度経済成長期に、日本では地球環境問題に対応するための環境基本法が制定された。

ウ 地球温暖化防止京都会議において、温室効果ガスの削減目標が話し合われた。

エ 地球サミットにおいて、野生動物の保護に関するワシントン条約が採択された。

(3) 発展途上国への援助に関連して、次のグラフは、おもな先進国の政府開発援助額の内訳と二国間援助の援助先の地域別割合を示したものである。グラフのa, b, cにあてはまる国名の組み合わせとして最も適当なものを、下のアからカまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

なお、グラフのa, b, cは、アメリカ、ドイツ、日本のいずれかである。



(「世界の統計 2017」をもとに作成)

- ア a アメリカ, b ドイツ, c 日本  
 イ a アメリカ, b 日本, c ドイツ  
 ウ a ドイツ, b アメリカ, c 日本  
 エ a ドイツ, b 日本, c アメリカ  
 オ a 日本, b アメリカ, c ドイツ  
 カ a 日本, b ドイツ, c アメリカ

(4) 次の文章は、国際社会の大きな課題について述べたものである。文章中の( )にあてはまる最も適当なことばを、漢字4字で書きなさい。

なお、文章中の3か所の( )には、同じことばがあてはまる。

従来の( )は、国家が自国の国土と国民を守るという「国家の( )」という考え方が中心であった。しかし、近年は、国だけでなく一人一人の人間に着目し、その生命と尊厳を大切にしようとする「人間の( )」という考え方も広まりつつある。